

GA332

言語文化演習—対人配慮の語用論—

江村 裕文

配当年次/単位：3～4年 / 4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは言語によるコミュニケーションである。言語を話せることとその言語でコミュニケーションすることとは全く異なった問題である。

最近の若者はコミュニケーション能力に問題があるという。彼らは日本語が話せないわけではない。日本語でのコミュニケーションのやり方が問題なのである。

日本人は母語を日本人のやり方で使用している。外国人も彼らのやり方で自分たちの母語を使用している。この言語の使用法の違いを異文化と称する。つまり「やり方」が異なっているのだ。

この演習では、テキスト読解による知見とSAでの経験をもとに、日本人が無意識に身につけている「やり方」を意識化し、相手の「やり方」を理解する方法を学びの目標とする。

【到達目標】

授業を通して、基本的な「語用論」・「日本語」・「敬語」等に関する概念を共有し、それらの知見を応用して、現実の日本人の日本語使用の分析できる学力および知識を身につける。

【授業の進め方と方法】

まずは自分たちが母語つまり日本語をどのように使用しているかという実態を観察し、次に「語用論」・「談話分析」・「発話行為論」・「コミュニケーション論」等の知見を応用して分析する。

具体的には、授業計画であげたような項目について、観察をはじめ（ボトムアップのアプローチ）。同時に並行して理論書の講読をすすめていく（トップダウンのアプローチ）。

最終的には、受講者の問題意識に応じて、現象の断片について個々に考察をすすめる。

【授業計画】

春学期

| 回 | テーマ | 内容 |
|------|--------------|---|
| 第1回 | 具体的エピソード i | 外国人の日本語使用から「気づく」日本語使用上の問題点を紹介する。 |
| 第2回 | 具体的エピソード ii | 第一回に引き続き、問題点を紹介する。 |
| 第3回 | 具体的エピソード iii | 前回に引き続き、問題点を紹介する。 |
| 第4回 | 文献講読 ① | 滝浦『ポライトネス入門』を読む デュルケム・ゴフマンの議論 |
| 第5回 | 文献講読 ② | 滝浦『ポライトネス入門』を読む ブラウン&レヴィンソンの「ポライトネス」理論 |
| 第6回 | 文献講読 ③ | 滝浦『ポライトネス入門』を読む 日本語の「敬語」 |
| 第7回 | 文献講読 ④ | 滝浦『ポライトネス入門』を読む 日本語の「敬語」 |
| 第8回 | 文献講読 ⑤ | 滝浦『ポライトネス入門』を読む 日本語の「敬語」 |
| 第9回 | 文献講読 ⑥ | 滝浦『ポライトネス入門』を読む 日本語の「呼称詞」 |
| 第10回 | 文献講読 ⑦ | 滝浦『ポライトネス入門』を読む 日本語の「指示詞」 |
| 第11回 | 文献講読 ⑧ | 滝浦『ポライトネス入門』を読む 日本語の「終助詞」 |
| 第12回 | 文献講読 ⑨ | 滝浦『ポライトネス入門』を読む 日本語の「終助詞」 |

| | | |
|------------|----------------------|--|
| 第13回 | まとめ ① | ムード（法）を考える上での「ポライトネス」概念についてのまとめ |
| 第14回 | まとめ ② | ムード（法）を考える上での「ポライトネス」概念についてのまとめ |
| 第15回 | 春学期試験 | 「ポライトネス」の概念に関する確認のための試験 |
| 秋学期 | | |
| 回 | テーマ | 内容 |
| 第1回 | 春学期のまとめと各自のテーマについて ① | 「ポライトネス」に関して春学期にやったことを確認し、各自のテーマについて話し合う |
| 第2回 | 各自のテーマについて ② | 各自のテーマについて話し合う |
| 第3回 | 各自のテーマについて ③ | 各自のテーマについて話し合う |
| 第4回 | テーマ討論 ① | 各自のテーマについて進行状況を発表し、相談する |
| 第5回 | テーマ討論 ② | 各自のテーマについて進行状況を発表し、相談する |
| 第6回 | テーマ討論 ③ | 各自のテーマについて進行状況を発表し、相談する |
| 第7回 | テーマ討論 ④ | 各自のテーマについて進行状況を発表し、相談する |
| 第8回 | テーマ討論 ⑤ | 各自のテーマについて進行状況を発表し、相談する |
| 第9回 | テーマ討論 ⑥ | 各自のテーマについて進行状況を発表し、相談する |
| 第10回 | テーマに関する報告 ① | 各自のテーマについて報告する |
| 第11回 | テーマに関する報告 ② | 各自のテーマについて報告する |
| 第12回 | テーマに関する報告 ③ | 各自のテーマについて報告する |
| 第13回 | テーマに関する報告 ④ | 各自のテーマについて報告する |
| 第14回 | テーマに関する報告 ⑤ | 各自のテーマについて報告する |
| 第15回 | 全体のまとめ レポートの提出 | 各自のテーマに関して、最終的な講評を行う |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その都度言及するアサインメントに必ずアクセスし、自分で自分が扱うべき領域を開拓していくように努めること。

【テキスト（教科書）】

まずは、滝浦真人『ポライトネス入門』研究社あたりから入っていき、必要に応じて参考書にあげた「語用論」「談話分析」に関する文献へと読み進めていく。

【参考書】

ブラウン&レヴィンソン／田中典子監訳(2011)『ポライトネス』研究社
 滝浦真人(2005)『日本の敬語論』大修館書店
 井出祥子(2006)『わかまへの語用論』大修館書店
 三宅和子(2011)『日本語の対人関係把握と配慮言語行動』ひつじ書房
 トマス／浅羽亮一監修(1998)『語用論入門』研究社
 オーティエ編／浅羽亮一監修(2004)『異文化理解の語用論』研究社

【成績評価の方法と基準】

春学期は、平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価する。
 秋学期は、平常点40点、レポートの得点60点、合計100点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

日本語の研究を通して得られた知見が、各学生の分野としている言語における研究の傾向や蓄積と合致しないことがあり、そのまま応用するのに困難を感じるという学生がいるが、それは、逆に考えると、テーマをうまく設定すれば、パイオニアになれる可能性があるということなので、やりがいがあるはずである。

管理 ID: 1705240
 授業コード: C1116